

大遠忌の歩みと

その時代

第五回 親鸞聖人六百五十回大遠忌

時代は、明治維新以降の近代日本が帝国憲法・教育勅語のもとで整えられ、日清戦争・日露戦争を経て「帝国」として成熟しつつあったと同時に、前年の一九一〇（明治四十三年）には韓国併合を行って植民地化に踏みだし、政府を批判する社会主義者・市民などを逮捕する「大逆事件」が起こり、「閉塞の時代」ともいわれはじめていた。

親鸞聖人六百五十回大遠忌法要は、一九一一年（明治四十四年）三月十六日より、十八日、二十日、二十二日、二十四日の

隔日五日を第一期、四月八日より、十日、十二日、十四日、十六日の隔日五日を第二期として、十昼夜にわたり、約百万人の参詣者のもとで修行された。団体参拝の鉄道発着駅として梅小路駅が開設され、希有な大法要であった。

法要修行に際して、事務を所管する臨時法務院を一九一〇年九月一日に開設し、二十二代鏡如宗主が総裁となり、大谷尊由理事長、梅上尊融布教部長、大洲鐵也庶務部長、朝倉明宣度支部長、本多惠隆参拝部長、藤枝澤道法務部長、後

藤環爾総務部長らのもと、日々約一千名の職員が法要の準備に奔走していた。

三月十三日には、鏡如宗主は宮内省に出向いて、「一 御紋附銀香爐 一 香花料」が「下賜」され、御真影前に供えられました。三月十七日に、鏡如宗主は「御直諭」を發布し、

宗祖大師大遠忌修行ノ期ヲ待チツ、アリシニ方今ニ値遇スルヲ得タリ此時ニ方リ辱クモ朝廷ノ恩賜ヲ蒙リ祖徳ヲ瞻仰スル更ニ厚キヲ加フ末流ニ浴スル者彌ヨ報謝ノ誠ヲ竭サル可カラス：

と述べた。法要の朝座は毎日午前九時、夕座は午後二時にとり、第一期の三月十六日の朝座報恩講作法、夕座無量寿会。十八日の朝座無量寿会、夕座無量寿会。二十日の朝座無量寿会、夕座無量寿会。二十二日の朝座無量寿会、夕座無量寿会。二十四日の朝座無量寿会、夕座大師影供作法。なお十六日朝座引続御俗

姓、二十四日夕座引
 続御伝鈔であった。
 第二期の四月八日の朝
 座大師影供作法、夕座
 無量寿会。十日の朝座
 無量寿会、夕座無量寿
 会。十二日の朝座無量
 寿会、夕座無量寿会。
 十四日の朝座無量寿
 会、夕座無量寿会。十
 六日の朝座無量寿会、
 夕座報恩講作法。なお
 八日朝座引続御伝鈔、
 十六日夕座引続御伝鈔
 でした。法要後には舞
 樂が行われた。

装束は毎朝座夕座は

礼装、毎晨朝は正装で、法要中の内陣
 の莊嚴は、期間を第一期三月十六より
 十八日、四月七日より十日、第二期三月
 十九日より二十二日、四月十一日より十
 三日、第三期は三月二十三日より二十五
 日、四月十四日より十六日に分けて取り



御影堂は全国からの出勤僧侶で満堂となった



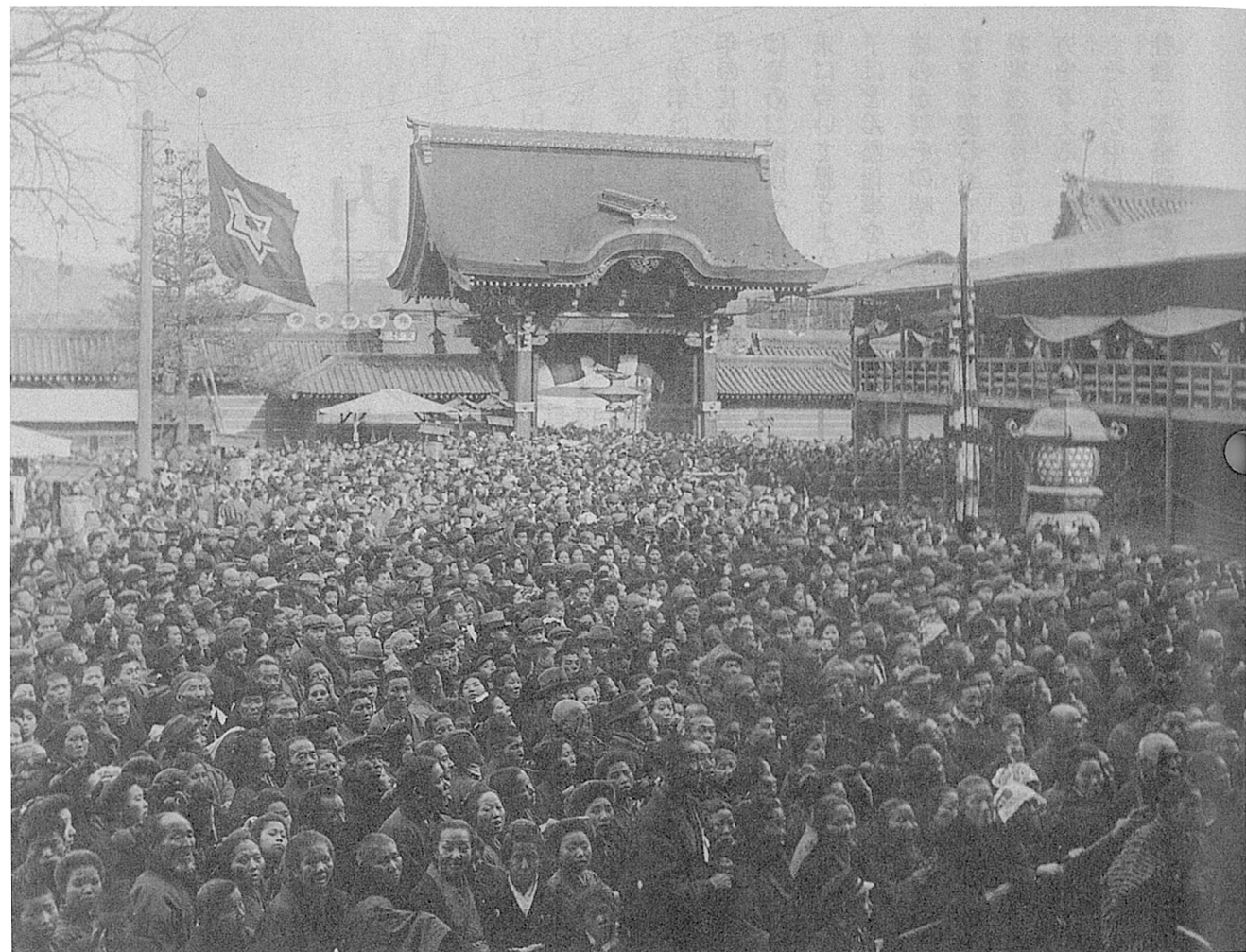
京都に到着した団体参拝者たち

換えを行った。

法要中の帰敬式は第一期七万四千五
 百九十三人、第二期五万三千九百二十七
 人。飛雲閣門未接待者は第一期は五千八
 百七十六人、第二期は七千九百八十五人。
 納骨数は第一期一万六千十一、第二期は
 一万四千九百七十。出勤法中数は第一期
 は一万四千二百五十人、第二期は一万八
 千七百人。団参人数は第一期五十七万五
 千八百二十四人、第二

期は四十三万六千六百十
 六人、両期をあわせる
 と百万七千四百四十人
 に及び、本願寺境内は
 全国各地からの参拝者
 でうめつくされた。

また、法要中に桂太
 郎首相・後藤新平通信
 大臣などの政府関係者
 をはじめ京都帝国大学
 総長菊池大麓・第十六
 師団長山中信義・内務
 省宗教局長川島克蔵・



参拝者でうめつくされた本願寺白洲

米国大使オプライヤン夫妻など多数の来賓が来山し、参拝した。

四月十七日、鴻の間代御真影堂建出で鏡如宗主は、大遠忌御満座の次のような消息を發布する。

宗祖大師ノ大遠忌ハ一宗重大ノ式典ナリ余幸ニコノ勝縁ニ値ヒ巨万ノ同朋ト共ニ二期ノ法要ヲ修了セシコト喜ヒ之ニ過キス候然リト雖モ若シタ、一時ノ盛況ニ止リテ将来ノ発展ニ資スルナクンハ報恩謝徳ノ真意ニ副フヘカラス是レ深く意ヲ留ムヘキ所ナリ……

親鸞聖人六百五十回大遠忌は二期十昼夜及び、盛儀のうちに修行を終えた。五十年ごとの大遠忌は、くしくも時代のうねり、転換と符号する現実を目の当たりとし、その時代に生きる人びとのさまざま苦悩と係わった歩みであることに、歴史的検証を含めて私たちは今一度、学ぶことが求められている。

(本願寺史料研究所長 赤松徹真)